

公益財団法人全日本空手道連盟

形競技 審判試験問題

答案用紙は試験官に提出すること。解答は全て答案用紙に記入すること。氏名、番号、その他必要事項を答案用紙に記入のこと。

試験会場では、その他の用紙又は本を机上に置いてはならない。試験中、他の受験者と話し合ったり、カンニングが発見された場合は不合格となる。試験の手順等について不明な点がある場合は、試験官に質問すること。

形競技審判試験問題

正誤問題

全ての状況に当てはまる場合は答案用紙の“正”の欄に、そうでない場合は“誤”の欄に“X”を記入のこと。各問1点。

1. 団体形チームのメンバーは、全員同じ空手着を着用しなければならない。
2. 形試合の時間は、分解も含め6分である。
3. 形試合では、競技者自身が所属する流派で指導された僅かなバリエーションは許される。
4. 形競技では、眼鏡は禁止される。
5. シングルポニーテールの目立たないゴムバンドは許される。
6. シード権を有する競技者が不参加の場合、シード権は下降しない。
7. 形競技は、いくつかの形式で運営することができる。
8. 全ての競技形式において、1グループあたりの競技者数は8名を超えてはならない。
9. 競技者数が97名以上の場合、グループ数を2倍の16グループとする。
10. 審判員は、演武される流派の正しい基本を確認すること。
11. 団体戦は、3名または4名で構成され、そのうち3名が出場する。
12. 適合性とは、形の流派の基本演武の一貫性である。
13. 演武登録された形の番号と名称に相違がある場合は、WKF公式形リストに記載された名称を優先する。
14. チームが4名で構成される場合、どのラウンドでも4名全員を使用することができる。
15. チームメンバーが形の開始と終了を指示することは、外部からの合図とはみなされない。
16. 形競技に使用するマットの表面は、統一された色でなければならない。
17. 審判員は、競技者のスタイル（流派）の正しい基本を確認すること。
18. 審判団は、1ラウンドごとにグループ内で交代することができる。
19. 形と分解演武の合計時間は、5分である。
20. 形競技では、空手着の袖を捲ってはならない。
21. コーチまたは競技者は、各ラウンドの前に、形の名称と番号を公式記録席に通知する責任がある。

22. 審判団の審判員の人数は、どの競技においても5名まで減らすことができる。
23. 引き分けの場合のみ、既に演武した形を繰り返すことができる。
24. 空手着のズボンは、脛の半分を覆う程度に短くてもよい。
25. 競技者が3名以下の場合、1つの形を演武し、1位から3位を決定する。
26. 競技者数が5~10名の場合、2つのグループに分け、各グループの上位4名がメダルマッチに進出する。
27. 競技者数が25~48名の場合、4グループに分ける。最初の形演武で、各グループの上位4名が第2ラウンドに進出する。
28. 形競技の審判員は、選手と同じ所属団体であってはならない。
29. 組手ではリボンなどの髪装飾は禁止されているが、形では許される。
30. 団体形競技のメダル獲得戦において、チームは分解演武を行う。
31. ラウンドロビンでは、形を繰り返し演武することはできない。
32. WKF世界ランキングまたはオリンピック出場権にカウントされない競技会では、審判員の人数を5人に減らすことができる。
33. ラウンドロビンでは、同じ形を連続して2回演武することはできない。
34. ラウンドロビンの終了時に、既に出場権を得ている競技者が不正行為により失格となった場合、準決勝の対戦相手は不戦勝で決勝に進出することができる。
35. 女子選手は、空手着の下に白無地のTシャツを着用しなければならない。
36. 女子選手は、希望すれば、空手着の下に白無地のTシャツを着用することができる。
37. 許可されていない衣服、衣類、器具の着用は禁止される。
38. 形競技では、目立たないゴムバンドまたはポニーテールの留め具を使用することができる。
39. 競技場は、形の演技を中断することなく行うことができるよう、十分な広さでなければならない。
40. マットで覆われた組手競技場は、形競技には適さない。
41. 空手着の上着は、形演武中に脱ぐことができる。
42. 音による合図は、一時的なバランスの崩れに科せられる減点要素と同レベルである。
43. 競技者の流派で教えられたバリエーションは認められない。
44. 各ラウンドの前に、選択した形を公式記録席に通知しなければならない。
45. 分解演武が終了した時点で、礼をしないチームは違反となる。
46. 必要な形数は、個人またはチームのエントリー数によって異なる。
47. ラウンドロビン終了時に、既に出場権を得ている競技者が不正行為により失格となった場合、銅メダルが授与される。
48. 競技者またはチームの演武を評価する際、審判員は全ての基準に基づいて評価する。
49. 14歳以下は、標準ルールから特に逸脱することはないが、高度でない形のリストを使用することがある。

50. 分解演武中の技のコントロール不足による負傷は、減点要素となる。
51. メダル獲得戦の場合、審判員は競技者と同じ所属であってはならない。
52. 演武は、5.0 から 10.0 まで 0.1 刻みで採点される。
53. 同点の場合、まずコイントスで解決する。
54. 4 名によるラウンドロビン方式では、同点解消の方法は 6 通りある。
55. 力強さは評価基準の一つである。
56. 予選 8 人制の場合、6 通りの引き分け解決法がある。
57. 形の評価基準は 10 項目である。
58. 移行動作は形演武の評価基準の 1 つであるが、分解では適用されない。
59. 分解演武では、移行動作とコントロールが評価の対象となる。
60. 力強さ、スピード、バランスは、形と分解の評価基準である。
61. 分解演武で、2 秒以上意識不明を装った場合、減点要素となる。
62. 分解は、形と同様に重要視される。
63. 演武開始前の過度な礼は、減点要素となる。
64. 分解演武中の技のコントロール不足による負傷は、違反となる。
65. 形名を告げないことは、違反とはみなされない。
66. 間違っただけを演武したり、または間違っただけの形名を告げた場合、違反となる。
67. 足を鳴らしたり、胸や腕、空手着を叩く行為は、審判員の判断に委ねられる。
68. 演武中、明らかに数秒間の休止や停止があっても、違反にはならない。
69. 分解は、形のように重要視されることはない。
70. 形は審判員の方を向いて始めなければならない。
71. 他のチームメンバーを含め、他者から聞こえる合図を使用することは、減点要素とみなされる。
72. 形演武中に帯が落ちた場合、その競技者は違反となる。
73. 主審の指示に従わない場合、またはその他の不正行為は、減点要素とみなされる。
74. 主審の指示に従わない場合、またはその他の不正行為は、違反となる。
75. 形と分解の合計時間である 5 分を超えた場合は、減点要素とみなされる。
76. 団体形では、チームメンバー 3 人全員が同じ方向、及び主審の方を向いて形を開始し、終了しなければならない。
77. 形演武は、戦いの観点で現実的であり、技の集中力、パワー、潜在的な影響力を示すものでなければならない。
78. 分解演武中、技のコントロール不足により負傷を来すことは、減点要素とはみなされない。
79. 形演武の評価において、軽微なバランスの崩れを考慮に入れてはならない。
80. 形と分解の合計時間である 5 分を超えた場合、違反となる。
81. 形演武は、力強さ、バランス、スピードを示すものでなければならない。

82. 僅かなバランスの崩れも、形競技の評価において考慮されなければならない。
83. 体の移行が完了する前に技を出すなどの非同期な動きは、減点要素とみなされる。
84. 不適切な呼気は、審判員が判定を下す際に考慮される。
85. 団体形において動きが一致していない場合、減点要素とはみなされない。
86. 不正確または不完全な動きは、減点要素とみなされる。
87. 長い行進、過剰な礼、または演武開始前の長い間を取る等、時間の浪費は減点要素とみなされる。
88. 足を踏み鳴らす、胸や腕、または空手着を叩くことは、聞こえる合図である。
89. 聞こえる合図をすることは、減点要素とはみなされない。
90. 不適切な呼気は、聞こえる合図ではない。
91. 防御が完全でなかったり、突きの的から外れた場合、減点要素とみなされる。
92. 分解演武中、技のコントロール不足により負傷を来すことは、許される。
93. チームのメンバーは、同調するだけでなく、形の演技の全ての面で能力を示さなければならない。
94. 演武開始と終了の号令は、審判員が判定を下す際に考慮される。
95. 公式記録席に通知された形が、そのラウンドに適切であることを確認することは、所属団体長の責任である。
96. 分解演武において、倒れた後、競技者は 2 秒以内に片膝を立てるか、立ち上がるかしなければならない。
97. 動作の省略や追加など、または本来の形を大幅に変更した場合は、違反とする。
98. 過度の喜びの表現や政治的・宗教的なデモンストレーションは、組手では違反となるが、形では違反とはならない。
99. ラウンドとは、1つのグループの競技者全員が1つの形を演武することである。
100. 競技者は、演武終了時、得点の発表までコートの上で待機しなければならない。
101. 各グループの終了時に、上位 2 名のみが次のラウンドに進むことができる。
102. 競技者は、公式形リストの中から任意の形を選択することができる。
103. 演武開始時と終了時に礼をしないチームは違反となる。
104. 伝統的な武器、補助的な装備または追加の服装の使用は認められる。
105. 個人形演武は、形演武開始の礼から演武終了の礼まで評価される。
106. 演武中に帯が腰から外れるほど緩んだ場合、減点要素とみなされる。
107. 演武中に帯が腰から外れるほど緩んだ場合は、違反とする。
108. 競技者は、礼の後、演武する形の名称を明確に告げ、演武を開始する。
109. 各形の評価基準は、10 項目である。
110. 分解演武の際、頸部への蟹ばさみは禁止されているが、胴体への蟹ばさみは許される。
111. メダル獲得戦には、2 グループの各上位 3 名のみが通過できる。

- 1 1 2. 分解演武において、頸部への蟹ばさみ技は、禁止されていない。
- 1 1 3. 競技者は、「正面に礼」「お互いに礼」をした後、競技場から退場する。
- 1 1 4. 聞こえる合図は、審判員が形演武を評価する上で、非常に重大な減点要素と見なさねばならない。
- 1 1 5. コーチは、アピールジュリーの代表者に抗議文書を提出することができる。
- 1 1 6. 抗議を受けたコート主任は、アピールジュリーを集め、却下された抗議については抗議料を全空連に預ける。
- 1 1 7. アピールジュリーのメンバー3名は、それぞれ抗議の有効性について結論を下す義務がある。棄権は認められない。
- 1 1 8. 抗議が受理された場合、アピールジュリーはそのメンバーの中から1名を指名し、抗議者に抗議が受理されたことを口頭で知らせる。
- 1 1 9. アピールジュリーは、抗議文書の調査内容及び受理または却下の理由を記載した簡単な報告書を作成しなければならない。
- 1 2 0. 公式形リストには、1 0 0の形が記載されている。